

日本教育メディア学会年次大会
2014年10月12日金沢星稜大学

メディア・リテラシーを育てる 情報科の授業

The lesson of information Study which learns a media literacy

聖母被昇天学院中学校高等学校
岡本 弘之

京都教育大学
浅井 和行

1. 研究の背景及び目的

1.1. 研究の背景

・情報科の学習指導要領にはメディア・リテラシーの記述はないが、情報科教科書の多くが記述

→授業で取り上げる必要性あり

・メディア・リテラシーの何を教えるか？

→受け手と送り手の両方の立場

メディア・リテラシーの定義

- 「メディアを批判的に読む解力だけでなくメディアによって創造的に表現し、メディアを効果的に活用する能力」浅井(2011)
- 「メディアの意味と特性を理解した上で、受け手として情報を読み解き、送り手として情報を表現・発信するとともに、メディアのあり方を考え、行動していくことができる能力」中橋(2014)

1.2. 研究の目的

・情報科においてメディア・リテラシーを育てる授業の実践・開発



・「メディア・リテラシー教育の実践事例集の開発」浅井ら(2014-15)に事例として提供



・メディア・リテラシー教育の普及に貢献

2. 研究の方法

2. 研究の方法

「メディア・リテラシーの構成要素」中橋(2014)

- ①メディアを使いこなす能力
- ②メディアの特性を理解する能力
- ③メディアを読解、解釈、鑑賞する能力
- ④メディアを批判的に捉える能力
- ⑤考えをメディアで表現する能力
- ⑥メディアによる対話とコミュニケーション能力
- ⑦メディアのあり方を提案する能力



これらの能力を育てる情報科の授業を開発・実践

3. 授業の実践

3.1 授業の概要

映像制作から考えるメディア・リテラシー
 - 高校2年生女子選択科目「情報C」で実施

前半 6時間	学校紹介の動画制作 ・テーマは「学校紹介」 ・5分の映像を3人のグループワークで制作 ・デジタルカメラとムービーメーカーを使用
後半 1時間	振り返りからメディア・リテラシーを考える ・制作体験を振り返り、映像というメディアの特徴を知る

3.1.授業のねらい

「メディア・リテラシーの構成要素」中橋(2014)

- ①メディアを使いこなす能力
- ②メディアの特性を理解する能力
- ③メディアを読解、解釈、鑑賞する能力
- ④メディアを批判的に捉える能力
- ⑤考えをメディアで表現する能力
- ⑥メディアによる対話とコミュニケーション能力
- ⑦メディアのあり方を提案する能力

前半で①・⑤、後半で②の能力を育成する

3.2 授業の展開

①映像制作(前半)

5分程度の学校紹介映像を制作する
 - コンセプト「学校を知らない人に良さを伝える」







企画 (1時間)	・コンセプトをふまえた企画を考える ・企画書・絵コンテ制作
撮影・制作 (2時間)	・デジタルカメラで撮影(授業時以外も) ・音楽の準備
編集 (2時間)	・映像の編集作業(ムービーメーカー) ・字幕・BGMの編集など
発表・相互評価 (1時間)	・映像を鑑賞し相互評価を行う

授業時の提示スライド(企画①)

1. 受験生が知りたい情報を話し合う
 - 一人3つ以上考えて、付箋に記入する
 - 話し合いながら、グループで整理する
2. 企画を考える(一人3つ以上)
 - 1の情報をもとに企画のアイデアを考える
 - テーマ = クラブ紹介、施設紹介、行事紹介
 - 方法 = インタビュー、取材、クイズ形式・・
 - 一人3つ以上アイデアを考え、付箋に記入する
3. 企画を一つに絞る(内容と方法を決定)

授業時の提示スライド(企画②)

絵コンテの記入

① タイトルコール 	② タイトル(白字) 〈背景黒〉 	③ 生徒が説明 
④ 先生 登場 	⑤ 先生 上半身のアップ 質問・答えは字幕 	⑥ 先生 どこで、どう撮影するか？ 誰が登場するか？ セリフ・字幕をどうするか？ 

生徒の作品例(企画書)

企画書の内容

テーマ	うちの学校の先生はやさしい
ねらい	受験生が感じる「どんな先生がいるのか」という不安に対し、「やさしい先生が多い」ということを伝え、安心させたい。
方法	うちの学校の先生はやさしい先生ばかりということ、実験を通じて伝える

生徒の作品例(映像)

3.2 授業の展開(後半)

3.2 授業の展開

①メディア・リテラシーを考える(後半)

生徒作品で 振り返り (全体授業)	<ul style="list-style-type: none"> 映像は「切り取られる」「編集されたもの」 <ul style="list-style-type: none"> - 映像は一部しか伝えない - どの部分を使うかは編集者の意図が働く 「やらせ」と「演出」の境界はあいまい <ul style="list-style-type: none"> - 映像のため普段しない行動をさせるのは？ - 取材で打ち合わせたとおり話してもらおうのは？ 映像は「イメージ」を作る <ul style="list-style-type: none"> - 映像を見て新たに思った印象・イメージはないか？ - 映像を使うTVの影響力が大きい！
制作体験から 振り返り	上記視点と自身の映像制作体験と重ねて振り返り個人でワークシートに記入
授業者のまとめ	生徒の感想と最初のスライド(↑)を使って、映像を見る時のメディア・リテラシーについてまとめた

4. 授業の効果

4. 授業の効果(前半) 映像制作について

- 映像表現のスキル・特性の理解は他の活動・教科へ波及した



4. 授業の効果(後半) 映像の特性を考える生徒振り返り

- ドキュメンタリー風に作っていても一部分しか伝えていない
- 楽しい学校のイメージ作りのため、楽しそうな部分だけを編集した
- 演出で失敗した時、何度も取り直し、成功した部分だけを使った
- 5分インタビューしたが使ったのは2分だけ
- インタビューでよい部分しか質問しなかった
- 悪いところを語っていた部分をカットした
- 普段意識しないことを映像で見せられると納得した。映像の力はすごい。
- インタビューはどの部分を使うかで印象が違う
- 映像制作で制作者の意図は大きい

受け手として必要なメディアリテラシーにつながる気付き

5. まとめと考察

5. まとめと考察

- メディア・リテラシーでは「作り手」「受け手」の両方の能力が必要



- 本授業実践では両方の能力を育成できた
- 制作体験を通して、「受け手」としてのメディア・リテラシーを、体験的に実感できた
- 制作実習が多い情報科では、他にも同様の実践ができる可能性を感じた